

開講年度	令和6年度	開講課程	博士課程
授業名	器官病態外科学特別研究		
開講キャンパス	紀三井寺	教室	各研究室
科目区分	特別科目	配当年次	1～4年次
必修・選択の別	選択	単位	1.4単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	<p>(胸部外科学) 虚血性心疾患、大動脈疾患、肺癌、乳癌 (消化器外科学) 消化器癌、癌遺伝子、リキッドバイオプシー (脳神経外科学) 脳卒中、脳腫瘍 (整形外科学) 運動器疾患、病態解明研究、診断治療法開発研究 (形成外科学) トランスレーショナルリサーチ (泌尿器科学) 泌尿器科学 (生殖病態医学) 妊娠高血圧症候群、婦人科腫瘍 (視覚病態眼科学) 眼組織創傷治癒 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学) 感染免疫、嗅覚障害、頭頸部癌、扁桃病巣感染症 (皮膚病態学) 皮膚 (口腔顎顔面外科学) 歯科口腔外科疾患</p>		
担当教員 (下線：科目責任者)	医	<p>(胸部外科学) 教授 西村好晴、准教授 本田賢太郎、講師 上松耕太、講師 平井慶充、助教 宮坂美和子 (消化器外科学) 教授 川井 学、准教授 松田健司、講師 速水晋也、講師 早田啓治、講師 岩本博光、講師 三谷泰之、講師 北畑裕司 (脳神経外科学) 教授 中尾直之、准教授 深井順也、講師 中井康雄、講師 佐々木貴浩 (整形外科学) 教授 山田 宏、講師 長田圭司、講師 石元優々、講師 西山大介、講師 福井大輔、講師 下江隆司 (形成外科学) 教授 朝村真一 (泌尿器科学) 教授 原 勲、准教授 柑本康夫 (生殖病態医学) 教授 井篁一彦、准教授 南 佐和子、准教授 馬淵泰士 (視覚病態眼科学) 教授 雑賀司珠也、教授 岡田由香、准教授 住岡孝吉、准教授 小門正英、准教授 田中才一、准教授 白井久美 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学) 教授 保富宗城、准教授 玉川俊次、准教授 河野正充 (皮膚病態学) 教授 神人正寿、准教授 山本有紀 (口腔顎顔面外科学) 教授 松村達志、講師 鈴木 滋、助教 田坂ゆかり</p>	
	薬		
授業の概要	<p>胸部外科学、消化器外科学、脳神経外科学、整形外科学、形成外科学、泌尿器科学、生殖病態医学、視覚病態眼科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、皮膚病態学、口腔顎顔面外科学の各分野において博士論文作成の指導を行う。本特別研究では、研究計画の立案方法を修得するとともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行する。また、日々の臨床活動において抱える高度先進医療・地域保健医療の課題解決に向けた研究を実践し、研究成果を発信して社会貢献できる高度な研究能力を身につけるとともに、臨床技能の向上を図る。</p>		

到達目標	<p>(胸部外科学) 手術手技を修得し、問題点を解析することができる。</p> <p>(消化器外科学) 消化器癌分野における癌の浸潤・転移あるいは抗癌剤耐性などに関する遺伝子解析および腫瘍特異的免疫療法に関するそれぞれのテーマについて研究計画の立案方法を修得するとともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行する。研究成果を発信して社会貢献できる高度な研究能力を身につけるとともに、臨床技能の向上を図る。</p> <p>(脳神経外科学) 脳神経外科学の主要分野である脳腫瘍や脳卒中における研究について、研究計画の立案方法を修得する。また計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行することができる。</p> <p>(整形外科学) 運動器疾患の病態解明、診断治療法の開発研究に関する手法を修得する。</p> <p>(形成外科学) 手術手技を修得し、創薬の開発に関わる研究能力を研鑽する。</p> <p>(泌尿器科学) 研究テーマに沿った研究を行い、博士論文を作成する。</p> <p>(生殖病態医学) 妊娠高血圧症候群の病態解明や胎盤機能の研究方法について修得する。婦人科腫瘍の病態解明や新規治療法開発の研究方法について修得する。</p> <p>(視覚病態眼科学) 英文論文で研究成果を公表する。</p> <p>(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学) 上気道における感染免疫・感覚免疫・腫瘍免疫に関する高度な研究能力を身につける。</p> <p>(皮膚病態学) 各種疾患における病態の解明、新規診断法の同定、新規治療法の開発に資する研究能力を身につける。</p> <p>(口腔顎顔面外科学) 歯科口腔外科疾患に関する研究を立案・遂行する技能を修得する。</p>
授業計画	<p>(胸部外科学) 冠動脈バイパス術、胸部大動脈瘤、大動脈解離に対する低侵襲治療を含めた手術手技を修得し、手術成績と問題点を解析することにより論文を作成する。(西村好晴/上松耕太/本田賢太郎) 肺癌を中心とした呼吸器外科の低侵襲アプローチの臨床上の課題を明らかにし、課題解決にむけた研究を実践する。(平井慶充) 乳癌診療における臨床上の課題を明らかにし、課題解決にむけた研究を実践する。(宮坂美和子) (西村好晴/上松耕太/本田賢太郎/平井慶充/宮坂美和子)</p> <p>(消化器外科学) 消化器癌に対する癌の浸潤・転移に関する分子生物学的アプローチの方法に関する研究について、博士論文作成に向けた研究指導を行う。(川井 学/松田健司) リキッドバイオプシーを用いた消化器癌の予後予測因子に関するバイオマーカーの開発に関する研究について、博士論文作成に向けた研究指導を行う。(岩本博光/三谷泰之/北畑裕司) 腫瘍特異的免疫療法(特にワクチン療法、樹状細胞療法)に関する研究について、博士論文作成に向けた研究指導を行う。(速水晋也/早田啓治) (川井 学/松田健司/速水晋也/早田啓治/岩本博光/三谷泰之/北畑裕司)</p>

<p>授業計画</p>	<p>(脳神経外科学) 脳腫瘍または脳血管障害の病態解明や治療法に関する研究計画の立案方法を修得するとともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行できるように指導を行う。 (中尾直之／深井順也／中井康雄／佐々木貴浩)</p> <p>(整形外科学) 運動器疾患の病態解明と診断・治療法の開発に係る研究の手法について解説し、実際に研究を行うことで技術を修得させるとともに、博士論文作成に向けた研究指導を行う。 1. 運動器疾患の研究における最近の動向 (山田 宏) 2. 頸椎疾患の研究における解析手法 (長田圭司) 3. 腰椎疾患の研究における解析手法 (石元優々) 4. 股関節・足関節疾患の研究における解析手法 (西山大介) 5. 膝関節疾患の研究における解析手法 (福井大輔) 6. 上肢の疾患の研究における解析手法 (下江隆司) (山田 宏／長田圭司／石元優々／西山大介／福井大輔／下江隆司)</p> <p>(形成外科学) 形成外科領域において、不治の病とされるリンパ浮腫の予防と治療は重要事項である。動物モデルを用いて、リンパ浮腫の発症機序の解明及び創薬の開発を目指した研究指導を行う。(朝村真一)</p> <p>(泌尿器科学) 泌尿器科悪性腫瘍領域や尿路結石に関する実験を行い、データの収集・解析を行う。(原勲／柑本康夫)</p> <p>(生殖病態医学) 妊娠高血圧症候群及び婦人科腫瘍の病態解明と新たな診断・治療法の開発に係る研究の指導を行う。(井篁一彦／南佐和子／馬淵泰士)</p> <p>(視覚病態眼科学) 眼組織の創傷治癒に関する基礎研究または臨床研究計画の立案を行い、計画に沿って研究及びデータの解析を遂行する。それを元に、博士論文作成の指導を行う。日々の臨床活動での課題解決に向け、自身の研究成果を発信して社会貢献する重要性を説く。これらを通して高度な研究能力を身につけると同時に、眼組織創傷治癒に関する臨床技能の向上を図る。(雑賀司珠也／岡田由香／住岡孝吉／小門正英／田中才一／白井久美)</p> <p>(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学) 1. 病原微生物の保菌・感染・伝播における宿主細菌相互作用についての研究指導及び論文作成指導を行う。(河野正充) 2. 嗅覚障害の再生における感覚免疫機序についての研究指導及び論文作成指導を行う。(保富宗城) 3. 扁桃病巣感染症における細菌叢と単一細胞解析についての研究指導及び論文作成指導を行う。(保富宗城) 4. 頭頸部癌・甲状腺癌における癌幹細胞の同定と解析についての研究指導及び論文作成指導を行う。(玉川俊次) (保富宗城／玉川俊次／河野正充)</p> <p>(皮膚病態学) 膠原病・自己炎症・アレルギー疾患、皮膚腫瘍、美容皮膚科に関する研究指導を行う。(神人正寿／山本有紀)</p> <p>(口腔顎顔面外科学) 歯科口腔外科疾患に関する基礎的研究及び新規治療法の開発、応用につながる研究について指導を行う。(松村達志／鈴木滋／田坂ゆかり)</p>
<p>授業の方法・形態</p>	<p>演習を中心とする。</p>
<p>使用するメディア</p>	<p>パワーポイント等によるスライド資料を使用する。</p>
<p>成績評価の基準</p>	<p>研究への取組100% (研究課題の設定内容、研究の遂行状況) によりS (90点以上)、A (80～89点)、B (70～79点)、C (60～69点)、D (59点以下) の5段階で評価し、C以上を合格とする。</p>

授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー（学生からの質問事項等への対応）	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。
教科書・参考書	<p>(胸部外科学) 特に指定しない。</p> <p>(消化器外科学) 【教科書・参考書】特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。</p> <p>(脳神経外科学) 特に指定しない。</p> <p>(整形外科学) 特に指定しない。</p> <p>(形成外科学) 【教科書】「TEXT形成外科学」 監修：波利井清紀 出版社：南山堂</p> <p>(泌尿器科学) 特に指定しない。</p> <p>(生殖病態医学) 【教科書】特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。</p> <p>(視覚病態眼科学) 特に指定しない。</p> <p>(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学) 【教科書】特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。 【参考書】英文誌「Infection and Immunity」 出版社：ASM Press 「がんの生物学原書」 著者：Robert A. Weinberg 出版社：南江堂</p> <p>(皮膚病態学) 【教科書】「あたらしい皮膚科学」 著者：清水宏 出版社：中山書店</p> <p>(口腔顎顔面外科学) 【教科書】特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。</p>